

事業名：亀山茶・亀山紅茶のある暮らし



提案者：魔女のお茶会

相手方：農林政策 G

提案型：市民提案

協働の形態：共催

事業費：行政 701,888円、市民 38,149円

● 事業の目的 ●

亀山茶・亀山紅茶の普及とお茶文化の継承。市民にお茶のおいしさと楽しみ方を再認識してもらう。

● 事業の内容 ●

<お茶教室>

5月23日(木) 旧木村邸 6人／6月7日(金) 城西地区コミュニティセンター 8人

8月7日(水) 市民協働センター「みらい」12人／9月7日(土) 野登地区コミュニティセンター 8人

12月7日(土) 市民協働センター「みらい」6人／2月7日(金) 市民協働センター「みらい」10人

3月7日(金) 市民協働センター「みらい」8人 合計58人

<呈茶>

市内各地で、季節にあったお茶の提供を行った。12回

<その他>

亀山紅茶ティーバッグの作成、お茶の淹れ方動画作成

● 市民の役割 ●

お茶教室・呈茶の実施

お茶の淹れ方動画の作成

亀山紅茶ティーバッグの配布

● 行政の役割 ●

市広報・公式 LINE での情報発信

お茶教室の募集受付

亀山紅茶ティーバッグの作成

● 事業の成果 ●

(団体)

お茶の淹れ方動画を作成したことで、小学校への出前講座に出向く前に、先に動画を見てもらって児童に予備知識を知ってもらうことができ、講座をスムーズに行うことができた。呈茶では、市内茶農家 11 軒から色々な品種の荒茶を提供してもらうことができ、市民の方に市内で取れたお茶を楽しんでいただくことができた。キセキの紅茶のティーバッグも色々な場面で配布することができ、亀山茶・亀山紅茶のアピールの一翼を担うことができた。

(行政)

年間を通じ、お茶教室、呈茶を開催し、市内外の方に亀山茶を PR する機会を多く持つことができた。また亀山紅茶ティーバッグを作成し、呈茶やイベント等で配布することで亀山紅茶を知っていただく機会となった。さらに市民団体で作成した亀山茶、水出し茶、亀山紅茶のおいしい淹れ方の動画を市 HP やチラシなどに掲載することで、今後も継続して市民が自宅で亀山茶や亀山紅茶を楽しむ方法を発信できた。

● 協働の効果 ●

(団体)

市、茶業組合、他市民団体、学生、市民ボランティアの方たちと協働で事業を実施した結果、自分達だけではとても手が回らないことができました。特にキセキの紅茶のティーバッグ作成など、資金面で達成できなかったこともできました。協働事業をきっかけに亀山高校の課題研究事業で亀山茶を取り上げてくれる学生がおり、亀山茶の良さを知ってもらうとともに、茶殻の再利用について研究いただけるなど、波及効果もありました。

(行政)

お茶教室等の開催にあたり、情報発信を市が担うことで、市広報・公式 LINE の活用、教育委員会を通じた各小学校へのチラシ配布など、広く市民に周知を行うことができた。また市民団体が講師やお茶のふるまいをすることにより、よりきめ細やかで効果的な普及啓発を行うことができた。

● 協働事業評価 ●

○評価基準…大変よくできた(5点)よくできた(4点)できた(3点)あまりできなかった(2点)全くできなかった(1点)

評価の視点	行政	団体
事業目的を共有することができましたか。	5	4
役割分担や責任を明確にすることができましたか。	4	5
相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	5	4
互いの自主性・自立性を尊重し、対等な関係で事業を実施できましたか。	5	5
互いの持つ情報等を共有することができましたか。	5	4
事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	5	5
合計点	56/60	

活動の様子

